

2026 年 8 月 ホームドクター2026 掲載

医療ガイド 函館中央病院



1930年の開設以来90年以上にわたり道南地域の基幹病院としての役割を担っている。総合周産期母子医療センター、北海道小児地域医療センター、北海道がん診療連携指定病院、小児がん連携病院(類型3)、臨床研修指定病院、日本医療機能評価機構認定病院

急性期・周産期医療の役割を担う チーム医療で安心の医療を提供

函館中央病院は、1930年の開院以来、病める人の立場に立ち、かけがえのない命と健康を第一に尊重する。心ある医療を基本理念とし、地域とともに歩み続け、2025年に95周年を迎えた。

小児・周産期医療においては、道南地域で唯一の「総合周産期母子医療センター」として、24時間体制でハイリスク分娩や低出生体重児の受け入れを一手に担っている。

充実した診療体制の中でも整形外科は道内でも最大規模の診療体制を有し、脊椎疾患や四肢外傷、骨粗しょう症、小児整形を含む幅広い分野で高度な医療を提供。地域にいながらにして、都市部と同水準の専門医療を受けられる体制を有している。

また、北海道大学との連携による専門医の派遣や、高度医療機器の導入を通じて、地域完結型の質

の高い医療体制の構築にも注力。市内2次救急輪番病院として救急医療体制も充実している。

がん診療については、北海道がん診療連携指定病院でもあり、腫瘍内科医を配置し、相談支援センターによる患者支援体制も整備されている。

高度医療機器の導入や更新も積極的に行う中で、手術支援ロボット・ダヴィンチを導入。消化器外科・泌尿器科・婦人科の各領域でロボット支援下手術を積極的に実施している。

さらに「臨床・教育・研究」の3本柱を掲げ、次世代の医療人育成にも力を入れており、職員の働きやすい環境整備も推進している。

「医療を支えるのは『人』です。職員が誇りと安心を持って働ける環境を整えることで、医療の質をさらに高め、地域の皆さまへより良い医療を届けていきたい」と、金山雅弘病院長は話す。



- ① 高度医療機器の導入や更新も積極的に実施(写真は手術支援ロボット・ダヴィンチ)
- ② 院内にはローソンをはじめアメニティーも充実
- ③ 道南地区の低出生体重児等の受け入れを一手に担っているNICU・GCU

内科・腫瘍内科・内分泌内科・消化器内科・腫瘍内科・緩和ケア科・神経内科・循環器内科・小児科・外科・整形外科・消化器外科・乳腺外科・肛門外科・形成外科・脳神経外科・心臓血管外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・精神科・放射線科・麻酔科・リハビリテーション科・歯科口腔外科・病理診断科

社会福祉法人 函館厚生院

函館中央病院

☎0138-52-1231

函館市本町33-2

<https://www.chubyu.com>

診療時間／
月～金 9:00～11:30 14:00～16:00
土曜 9:00～11:30
※各科・曜日により異なるため要事前確認
休診日／日曜・祝日・年末年始
最寄りアクセス／
市電中央病院停留場から徒歩1分

**病院長
金山 雅弘氏**

1990年北海道大学医学部卒業。99年函館中央病院勤務。25年6月1日より現職。日本整形外科学会専門医・認定脊椎椎間病医。日本脊椎椎間病学会脊椎椎間外科指導医。医学博士